

As of 2026年5月1日

本社住所	神奈川県横浜市緑区4259-3 Science Tokyo 横浜ベンチャープラザ W305					
代表者	吉井康祐	設立	2021年8月	資本金 (資本準備金等含む)	26,000	千円
経営理念	HikariQ Healthは、オンリーワンの独自技術を用いて、革新的な免疫測定法及び抗体医薬を創製し、世界の医療と人々の健康に貢献することを目的とします。この目的を達成するため、当社は、以下の3点を企業理念として全力で挑戦し続けます。 ・独自の抗体技術により独創的な免疫測定法及び抗体医薬品を創出します。 ・世界の患者様に貢献できる革新的な抗体技術を創造し続けます。 ・開発した技術を医療業界だけでなく様々な分野に応用し社会に貢献します。					
業種分野	抗体薬物複合体による抗癌剤の開発					
連絡先	https://www.hikariq.co.jp/contact/		HPアドレス等	https://www.hikariq.co.jp/		

事業内容のご紹介

旧東京工業大学（現東京科学大学）上田研究グループが見出した蛍光クエンチ現象を基本としたバイオセンサーQ-bodyの技術を応用した抗体薬物複合体(Q-ADC)の開発を進めています。従来のADCは、標的がん細胞特異的に集積できるため、副作用が少ない反面、薬効が膜タンパクの機能に依存するために適用できる癌腫に限られます。Q-ADCは、より幅広い癌腫をターゲットすることを可能にして癌治療に貢献します。

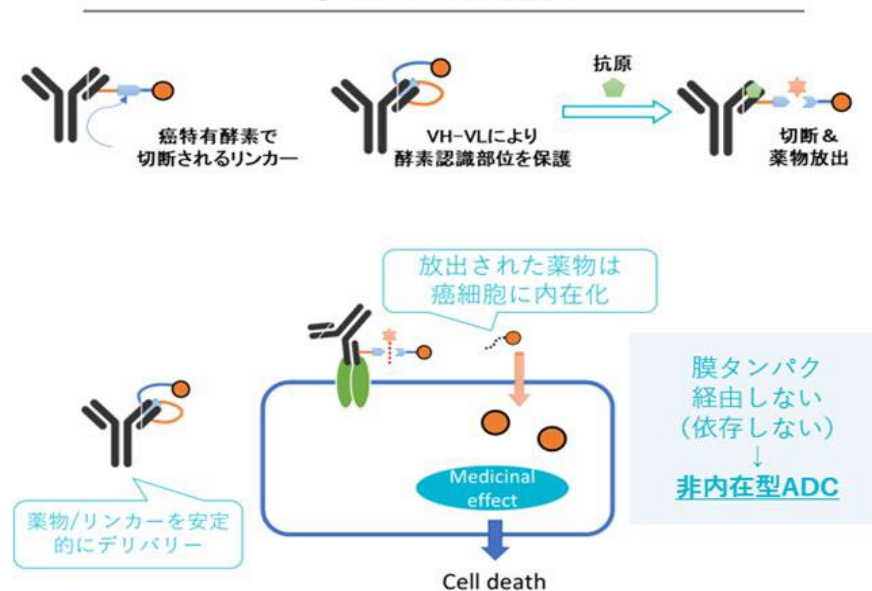
PRポイント

・世界の抗がん剤市場は、2022年に約1,700億ドル、2030年までにCAGR 9.2%で成長すると予測されています。その中でも、抗体薬物複合体（ADC）市場は2022年からCAGR16.4%で成長し、2030年には228億7,000万米ドル(3兆5450億円 1\$=155円)に達するとされている成長産業です。ADCは、抗体と、薬物、そして両者それを繋ぐリンカーの3つのユニットで構成されており、標的がん細胞特異的に集積できる抗体に薬物を結合し、正常細胞に悪影響を及ぼすことなく、がん細胞のみを死滅させることで、抗がん剤治療における副作用低減と有効性増大が期待されています。一方で、従来のADCは、癌細胞に発現している「膜タンパク」を抗原として結合して薬効を発揮するため、「膜タンパク質」がADCを細胞内に取り込む内在効率に薬効が依存しており、適用できる癌種が限定的でした。当社のQ-ADCは、独自の「内包化リンカー」技術により、膜タンパクの性質に依存しないADCを実現して、幅広い癌種をターゲットにすることを目指しています。

【HikariQ 新技術 Q-ADCの特徴】

- ・癌酵素で切断されるリンカーを採用
- ・独自の「内包化リンカー」技術により、リンカーの切断部位を抗体に内包化することで保護する
- ・抗体が抗原（癌細胞）と結合すると、内包化していた部位が外部に露出され酵素により切断される
- ・薬物を細胞外部で放出するため、既存ADCの癌特異性はそのままに、膜タンパクに依存しない

Q-ADC 作用機序



代表者メッセージ

弊社のオリジナル技術は、上田宏教授（東京科学大学）が開発した“Q-body”の作動原理を応用し、抗体の可変領域（VH/VL）にリンカーなどのペプチドを内包化する“Trap&Releaseシステム”です。このユニークな技術により、上記Q-ADC以外にも検討可能な創薬技術を開発しております。